

PINCHI VALVE

ラッチ機構式ピンチバルブ ELシリーズ



(写真は EL-1005)

大口径チューブを長時間 開／閉可能
状態保持に電力不要で、従来型より大幅な電力消費改善

- ・ 「ラッチ機構(※)」採用により、オープン／クローズのいずれの状態を保持するにも通電を必要としないため、省エネに貢献します。(※次頁参照)
- ・ 状態保持に通電が不要なことから、駆動部の発熱を抑えることができます。
- ・ 内径15mmまでの大径シリコンチューブに適合し、大流量の制御に対応します。

型 式	EL-1005	EL-1502-1
チューブサイズ	内径10mm×外径13mm	内径15mm×外径19mm
チューブ材 質	シリコン	
流 体 圧 力	0～50kPa	0～20kPa
外形寸法(高さ×直径)	128.7×64mm	140.7×64mm
電 圧	DC12V、DC24V	

高砂電気工業株式会社

〒458-8522 名古屋市緑区鳴海町杜若66 TEL: (052)891-2301 FAX: (052)891-7386

E-mail: info@takasago-elec.co.jp URL : <http://www.takasago-elec.co.jp/>

ラッチ機構とは

例えば N.C.(常時閉)タイプのソレノイドバルブでは、オープン状態を保持するためには電力を供給し続ける必要があります。ラッチ機構は、このような状態保持に永久磁石の磁力を利用することで、電力の供給を不要としたものです。

次のような利点があります。

ラッチ機構式バルブのメリット

1. 地球に優しい省エネバルブです。

状態保持のための通電が不要ですので、通常型ソレノイドバルブにおいて通電状態の長いアプリケーションほど、省エネ効果が大きくなります。

注) 状態遷移の動作時(開→閉、閉→開)には電力が必要です。また、動作の方向毎に供給電流の極性を変える必要があります。

2. 発熱が低く、周囲への温度影響が減ります。

状態保持のための通電が不要なため、それに伴うソレノイドの発熱を抑えることができます。分析分野など、流体への温度影響が懸念されるケースでの使用に適します。

3. コンパクトサイズで大きなパワーが出せます。

ソレノイドで大きなパワーを発生させるには大きな電流が必要ですが、通常は焼損防止のために大きなサイズ(容量)にするか、もしくは通電時間を短く制限する必要があります。

ところがラッチタイプでは発熱を抑えられるため、サイズにも通電時間にもあまり制約を受けずに大きなパワーを出すことができます。

ソレノイドバルブのコンパクト化や高耐圧化、連続使用化に貢献します。

※詳細につきましては下記ホームページをご覧ください。

<http://www.takasago-elec.co.jp/glossary/2000/01/000019.html>

※ラッチ機構は他シリーズのピンチバルブやダイヤフラムバルブにも応用可能です。

詳しくはお問い合わせ下さい。